

皇位繼承の歴史（八）

高田 友

後水尾院の係累

つらつら本朝二千六百七十九年の皇統を拜し奉るに、兄弟御四方（はらからおんよかた）相繼ぎて萬世一系の帝位を踐みたまひしは僅かに二例を見るのみ。

其一は、古代、欽明天皇の皇子皇女にておはします。30敏達・31用明・32崇峻・33推古。推古は崇峻の御姊にあらせられたまひしが、女性なるを以て、崇峻弑せられ給ひたるの後に登極せらる。

其二は、江戸初期、108後水尾院の皇子皇女にておはします。院は幕府に含む所あらせられ、憤怒の餘り、一六二九年、恣に惟神の寶祚を放擲せさせたまふ。此より四百年の往時、承久の亂收束してより後、幕府に諮らずして禪讓したまひけるは其の例を見ざるを以て、大御所秀忠は院を惡み奉り、隱岐遷幸の儀を企てたれども、大樹家光に諫止せられて思ひ留まる。萬世に相模入道／北条高時（の惡名を流すに至らざりしは、豈徳川家の爲に幸甚の功と言はざるべけんや。

新帝は奈良以來例を見ざりし女帝・109明正院なり。（江戸期には「天皇」の尊稱は用ゐずして「院」とこそは申し上げしか）御齡七歳。明正院は東福門院和子の所生にて、すなはち秀忠の外孫なり。我が孫なるを以て、秀忠も料簡ありしかど、餘の皇子を立て給ひましかば、先帝の御命運、必定、後鳥羽・後醍醐兩帝の先蹤を追ひたまはまし。

茲に徳川氏は、皇室の外戚となるを得たりとは言ひ條、異なるかな、これを奇貨として我が裔にて皇位を獨占せんとの野望を抱くには至らざりし。却つて、このち、將軍家よりの入内は影を潜む。その故は、帝徳川の縁戚なれば、公家・諸大名のこれに乗じて、幕政に容喙せん（の儀を懸念したるによりてなり。

將軍家光は我が姪なる帝を懇切に遇し奉りしと傳へらるるが、かつは幕府の威踰越せられんことを恐れ、厳しく監視し奉る。分けても退位あらせられて後は、「黒印狀」を發して、朝政に參與するの儀を固く戒め奉りし。むしろ徳川の血脈流るるがゆゑに警戒せられたまふ。

明正院は十四年御在位の後、異母弟に讓位あらせらる。これ110後光明院にておはします。後光明院の剛毅に就きては、すでに記し奉りしによりて省略す。

此の帝、御在位十一年にして、痘瘡にて廟御あらせらる（一六五四）。十一歳にて踐祚、二十二歳にて俄かに崩御し給ひしによりて、柳營より鳩毒を奉りしとの疑惑如今に到る。

このとき、後水尾院、院政を敷かせたまひてあり。院の鍾愛し給ひし皇子は識仁親王にして、御兄後光明院の養子となりておはせしが（後光明院に皇子いませず）、いまだ當歳にておはしましき。これによりて、御兄良仁親王（十七歳）假に踐祚して111後西院となりたまふ。何ゆゑに選ばれたると思ひたまふや。餘の御兄弟は既に悉く落飾し給ひければなり。良仁親王は夙に高松宮家第二代を繼承したまひ、別儀に花町宮とも號したまひけれど、俄かに祖宗の神器を承けたまふ。さらに、皇子・幸仁親王の繼承（十二歳）したまひて後、高松宮家は有栖川宮と宮號を改めらる。幸仁親王は、一六八〇年、將軍家綱薨去したるをり、大老酒井忠清によりて、次期將軍に擬せられたる（二十五歳）の奇遇あらせたまふ。

平安初期、淳和天皇の御異名を西院天皇とぞ申し上げる。江戸期には、天皇にあらずで院と稱へ奉りし

かば、崩御の後に、追號を「後西院」と贈り奉る。「後西院院」となるべけれど、院の重複を避けたるなり。而して、明治の世になりて、改めて天皇號を奉りたるに、「後西院天皇」たるべきを、「院」は、「天皇」なりとの理を以て省き、「後西天皇」と定まりたり。「後西院天皇」の方よりしものをと後來悔まるること屢しばしばなれど、淳和帝の「西院天皇」は「さいみん」ならで、「さい（てんわう）」と申し上ぐるが倣ひなれば、「ごさいみん天皇」ならで、「ごさい天皇」なるの讀みは正用といふべきか。

後西院は不遇の國主にてあらせられたり。踐祚の前年、御兄帝の御名代にて江戸下向のことあらせたまふ。これがために、踐祚あらせられんとして、異を立つる者あり。曰く、關東の猪武者に尊顔を晒したまひければ最早穢れたまひけり。萬乗の君たるの尊嚴を失ひたまひけりと。

後西院の御治世には、天變地異の輩出するあり。伊勢神宮、大坂城、内裏に火事あり、あまつせ剩へ、一六五七年には明暦の大火出來す。しゅつたいさは主上の徳の至らぬがゆゑと誹謗せられ、一六六三年（殉死の禁の發せられたる年）退位を強ひられ給ふ。幕府に強ひられたりとの説大勢なりしかど、後西院の正室は徳川の係累なりき。よりて、近來、御父後水尾院に疎まれたまひけるがゆゑにあらずやと唱へらるるに至りけり。

後西院、御在位九年にて退位したまふ。すなはち、後水尾院の鍾愛せらるる識仁親王の十歳に成長せられたまへるを期に御譲りあり。新帝すなはち112靈元院にておはします。

さて、無慙なる逸話あり。先帝崩じたまひて後、後西院の追號（諡號にあらず）を奉りたるは靈元院なり。御兄の後裔おんすゑ天位覬覦きけん（皇位をうかがふの儀なり）のことなからしめんが爲に、跡絶えたる不吉の帝・西院天皇の加後號を選ひたるとの儀なり。すなはち、我が裔のとこしへに皇位を占むるに障りなからしめんと期したまへるなり。

摩訶不思議なるの儀あり。これがはらから御四方はいづれも學を好ませたまひ、就中靈元院は古今傳授を受けたまふ。而して、授けたまひしは、豈圖らん、後西院にておはしましき。然則、靈元院は、御兄にして師なりし後西院に恩を仇にて返したまへるか。

靈元院一六六三年踐祚。後水尾院、院政を敷かせたまひけれど、一六八〇年、父院崩御あらせたまひ、親政を行ひたまふ。ときに二十七歳。のうち、後光明院は早世したまひけれど、御四方は長壽を保たせたまふ。後水尾院八十五歳（一六八〇）、明正院七十四歳（一六九六）、後西院四十九歳（一六八五）、靈元院七十九歳（一七三二）。

靈元院の皇子にてあらせられし次代・113東山院は忠臣藏のをりの帝にておはします。松の廊下の騒動にかかはる敕使院使とは、東山院、靈元院の御使なりき。東山院は三十五歳（一七〇九／綱吉薨去の年）にて崩御あらせられ、皇子立ちて114中御門院とならせたまふ。

（平成三十年十二月十五日受附）